



連載第59回
特定外来生物の巻



三宅まゆみのプロフィール
若松区選出・60歳
生年月日：昭和38年(1963)7月1日生まれ
星座：かに座
血液型：A型
家族：夫(元県議会議員 野村陽一)、一男(18才)
趣味：自然に触れる事、食に関する事
好きな言葉：一生感動 一生勉強
学歴：県立若松高等学校卒業、長崎ウエスレヤン短期大学英語科卒業、北九州市立大学法学部II部行政学科卒業、九州大学大学院法学府政治学専攻(修士)修了
職歴：毎日新聞西部本社、アジア太平洋博覧会勤務などを経て、北九州市議会議員(平成9年より)現在に至る
所属：総務財政委員会(副委員長)



市民の方から「北九州市の奨学金を申し込む際に保証人が二人必要で、一人は親ができて、保証人になれるような身内が少なく厳しい社会状況で難しい。保証人を一人にできませんか?」とお声をいただき教育委員会と話をした結果、保証人は一人で大丈夫とすることができました。以前も市営住宅の保証人についてもご相談があり、軽減することができました。社会の現状に合わせて変えられることは変えていくことが大切だと思います。私だけでは気づかない事がたくさんあります。すべて実現できるとは言えませんが、どうぞお気軽にご相談下さい。



早いもので息子は18歳になり手がなくなり、一方で83歳の母は相変わらず元気で生活に特に支障はありませんが、最近物忘れや約束を忘れてすることが多くなっています。運転免許証を返納し、人一倍行動的だった母は家にいることが多くなったことも影響しているのかと出来るだけ予定を入れ、カレンダーに記入するなど本人も努力しており家族全員で見守っているところです。

ちなみに本市の高齢化率は政令市1位。人口の約3人に1人が高齢者で認知症の方の数は推計41,846人(介護保険要支援要介護認定結果による)で年々増加しています。今後超高齢社会の中で大変な課題です。子育てや介護をしながら働きやすいまちづくりや認知症になっても安心して住み続けることのできるまちづくりに更に力を入れて参ります。

皆さんのお声を聴かせて下さい。

サークルや小さなお茶飲み会、飲み会など皆様の市政に関する様々なお声をお聞かせいただける場があればご連絡下さい。もちろん事務所にお越しただいても結構です。



市政に関するご相談は

下記の三宅まゆみ事務所までお気軽にご連絡下さい

三宅まゆみ 事務所

〒808-0063 若松区和田町16-4
Tel 093-751-8206 Fax 093-752-0787
E-mail mayu1717@bronze.ocn.ne.jp
http://www.mayumi-arigato.jp/



北九州市議会 ハートフル北九州

〒803-0813 北九州市小倉北区城内1-1 Tel 093-582-2658 Fax 093-582-4867



ハートフル北九州

市議会議員

三宅まゆみの

みやけ

Mayumi Miyake's NEWS LETTER

ニュースレター

No.74 WINTER 2023

市議会議員 三宅まゆみのニュースレター ●2023年冬号[通算74号] ●2023年12月21日発行 ●発行人・編集人:三宅まゆみ

今任期も残すところ1年、皆様のお役に立てるよう頑張ります。



孫文の銅像



「将棋の藤井聡太棋士をぜひ北九州に!」と要望し対局が実現した旧安川邸にて

新しい年がスタートしました。皆様、良いお正月を迎えられましたでしょうか? 昨年後半から徐々にコロナ禍前の日常が戻ってきて、まちのにぎわいをうれしく思う今日この頃です。ただし新型コロナウイルス感染症がなくなったわけではありません。後遺症で苦しんでいる方もおられ、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈り致します。

早いもので私の任期も残すところ約1年となりました。今期はとにかく新型コロナ対策に追われ、さまざまな困難な状況のご相談が多くあり改善に務めると同時に、1期目に夢を描いた石炭というエネルギーで栄えた若松を今度は新しいエネルギー(風力発電など自然エネルギー)で元気にするという構想がより具体的に進んでいます。時間がかかりましたがもうすぐ形として見えてきます。これまで多くの経験を積み、年を重ねても気力は増すばかりです。今後も意欲的に頑張っている所存です。このチャンスを活かして多くの方が若松を訪れ、にぎわいを取り戻す更なる仕掛けづくりに全力で取り組んで参ります。

また少しずつ最低賃金や平均賃金は上がっているもののそれ以上に物価も上がっており、一般的に生活は苦しくなっています。円安も様々な影響が出ておりこれからの国の舵取りが本当に気になる所ですが、地方でやるべき事はこれまでの経験を活かししっかり頑張る参ります。何卒ご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。

皆様におかれまして本年が明るい希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

議会だより 毎議会質問したい事がたくさんあり、もっと質問時間がほしいです。



9月議会も12月議会も本会議一般質問に立ち、さまざまな観点から質問させていただきました。毎議会質問したいことはたくさんあり、項目を絞るのが大変です。同じ会派の中で同じ内容の質問が重なったときは自分が調べた内容もお渡しして欲しいし、質問の内容を会派内でも議論をし、最終的には自分の責任で原稿をまとめるようにしています。質問の項目内容は下記の通りです。紙面の関係で一部しか書けませんが、私のホームページや右のQRコードからご覧いただければ質問の録画を見ることが出来ますので、ぜひ関心のあるところだけでもご覧いただけますと幸いです。



令和5年9月定例会
9月8日 質疑・一般質問



令和5年12月定例会
12月4日 一般質問



三宅まゆみ (市議会議員)

(紙面の関係で詳しくは議会のホームページでご覧いただくか、事務所までお問い合わせください。)

9月議会

- 1 2040年問題と本市の総合計画について
- 2 災害から市民を守り災害に強いまちをつくるために
- 3 官民連携での市役所の建て替えと小倉の中心部の有効活用について
- 4 若松エコタウン周辺の充実について

後の薬物乱用防止の取り組みについて尋ね、話題になっている時こそ啓発をと要望しました。

2 国際的なリーダーを育成するまちづくりと教育について

現在世界中で紛争が起き、毎日のように多くの尊い命が奪われています。

世界中の紛争で、資源のない日本は必要な鉱物資源や食料などが手に入りにくくなり、製造業にも影響がでて、それに伴う物価の高騰で生活が困窮し、世界中の紛争地にいる日本人の命を脅かし、ひいては我が国の治安を脅かすといっても過言ではありません。

これからのグローバル社会、このまちや日本だけで物事が完結するわけではありません。もちろん国内でも、今後の少子高齢社会の中で様々な労働力を外国人に頼らざるをえないことは目に見えています。

日本人が日本の会社に就職しても、いつか海外で働くことになるかもしれません。そこで本市の国際化、国際理解や国際協力都市を進めることについての見解を尋ねました。

また広島県では今後日本が直面する危機を乗り越えるカギは教育であると、平成26年に広島版「学びの変革」アクションプランを策定。国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP)*を導入した併設型の公立の中高一貫校である広島県立広島叡智学園を設置しました。全寮制の学校でいわゆるエリート教育ではなく、テレビやネットなどで見たニュースを

12月議会

1 薬物乱用防止について

こここのところ、大学運動部ほかの学生が、大麻使用により逮捕されるニュースが続き、大麻に似た成分が含まれる「大麻グミ」がイベントで配布され、それを食べた人たちの健康被害が相次いで確認され、国が指定薬物に追加規制がかけられました。更にはさみしさやつらさを少しでも和らげるために違法薬物ではない市販薬をオーバードーズ (過剰摂取)している10代、20代が増えているという事で最悪死亡することもあり危険です。

そこで、本市における若者の薬物乱用の現状や、今



自分事の課題に転換し、答えが一つではない課題の解決に向けた活動を通じ多様な価値観のぶつかり合いを乗り越える力を育成し、ここでの教員の人事交流、生徒の交流などを通じ、そのノウハウを全県で共有しているそうです。

まず、本市においてグローバルリーダーを育成するために、どのようなことに取り組んでいるのか？

また現在の格差社会の中で、経済的に豊かな家庭の子どもたちは、学校や教育を受けられる選択肢が多くありますが、経済的に厳しい家庭でも夢や希望が広がるような、グローバルリーダーを育成することが今後の公教育において求められます。本市において、広島県のような国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP)*を導入した学校をつくることについての見解を尋ねました。

また市長は現在策定中の北九州市基本計画素案の中で、民間のインターナショナル・スクールの誘致実現に取組むとしていますが、例えば、福岡のインターナショナルスクールは、入学金35万、授業料は年間137万2千円～です。限られたご家庭の子どもたちの選択肢としてあることはよいと思いますが、私は公教育の中でこのような取組みが大変重要であり教育委員会の予算だけでは厳しいので、是非ここは予算の権限を持つ市長の英断をと強く要望しました。

提案の新しい学校については教育長は現状を話され慎重な答弁で、市長は比較的前向きな答弁だと受け取りました。詳細はぜひ2ページのQRコードをご覧ください。

*国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) …国際的な教育プログラム。世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成。国際的に通用する大学入学資格が取得できる。

3 鳥獣対策について

昨今、熊が町に下りてきて人が襲われるニュースをよく見ます。現在、九州での生息はないようですが、私たちの身近でもイノシシやサル、シカなどの被害は増加しています。また先日、国立環境研究所の五箇公一先生の講演会で改めてアライグマが増える事の怖さを感じ再度質問しました。

現在日本では、狂犬病の発生はありませんが、世界のほとんどの地域で発生しており、日本は常に侵入の

脅威にさらされています。狂犬病は、発症すればほぼ100%死亡する病気であり、台湾でも2013年に約50年ぶりの発生が確認されたように、現在は発生範囲が広がっています。

アライグマは天敵が存在しないため繁殖率が高く、今後急増した上に、仮に狂犬病が日本で発生し広がった場合パンデミックにもなる可能性があり、アライグマはすでに急増傾向にあり絶対に後回しができない状況です。現状と今後の取り組みについて尋ねました。

また最近では狂犬病予防注射の接種率が少し下がって流行ってしまっただけでは遅く、しっかりと啓発が必要であり現状と見解を尋ねました。

産業経済局長は、アライグマに関する被害相談件数はこの2年間で約3倍、捕獲頭数につきましては約6倍となっている。対策を講じているものの、捕獲頭数も依然増加しアライグマの生息数は予想を超えて増えていると思われ、今年度から新たな取組を開始した。

福岡県では「福岡県アライグマ防除実施計画」を今年度中に策定し、対策を強化しており、本市としてはアライグマの急増に対して、強い危機感を持っており、福岡県や関係機関と連携を密にし集中的な対策に取り組んでいくとのことでした。

保健福祉局長は犬の飼い主一人一人が狂犬病に関して正しい知識を持ち、飼い犬の登録と予防注射を確実に行うよう、今後も獣医師会と連携しながら啓発を行ってまいりたいとのことでした。

今回質問する予定で準備した「特別支援学校高等部のスクールバス利用について」は同じ会派の小宮議員に質問していただきました。

本市では特別支援学校に通う小中学校（義務教育）の生徒はスクールバスで通っていますが、高等部は基本自主通学することとなっています。ただ交通の便が悪かったり、様々な理由で実際には親が送迎せざるを得ないケースも多く、仕事に支障があるなど苦勞されている保護者が多い現状です。本市も福岡市のように高等部の生徒で自主通学が困難に必要な生徒が小中学校のスクールバスで通学できるようにすべきでは？という質問に、今後小中学校の生徒のスクールバスの空きがあれば乗車可能にするとの答弁でした。まずは一歩前進といったところです。